

## 最近の欧州通貨の動きについて

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

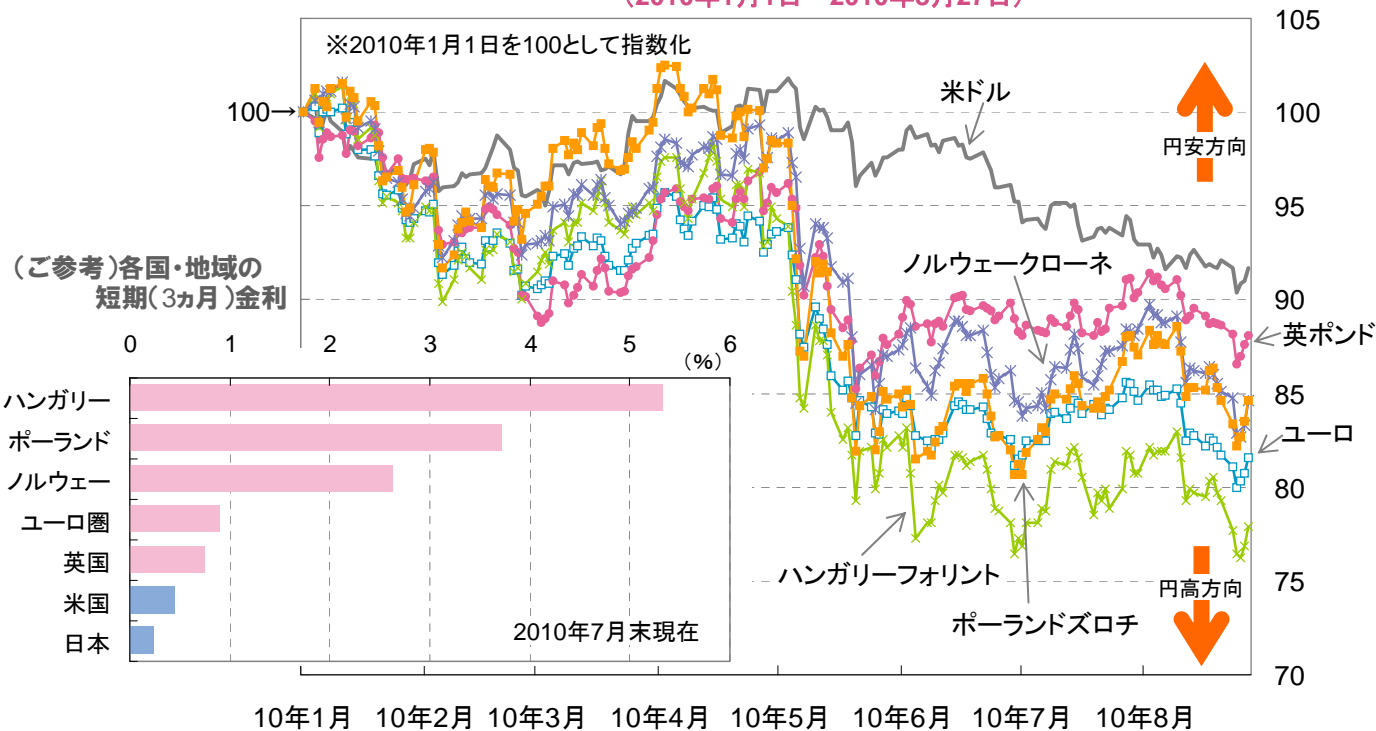
今年に入ってからの為替相場を見ると、米ドル以上に欧州通貨の下落が大きくなっていることがわかります。これには、南欧の財政問題への懸念が高まった4月以降の大幅下落や、ユーロ圏の景気回復の鈍さが影響しているとみられます。また、米国経済の減速による世界景気の回復鈍化に対する不安も重石となっているようです。

ただ、現状では、欧州の財政問題に対する過度な不安心理が後退していることに加え、欧州諸国の中には、財政健全化への着実な取り組みや良好なファンダメンタルズ(経済の基礎要因)が認識されている国があること、また、日本との短期金利差が大きい国があることなどは、欧州通貨を支える要因だと考えられます。おりしも、昨日発表されたポーランドの4-6月期の実質GDP成長率は、欧州向けの輸出増加を背景に、前年同期比(年率換算)3.5%増と市場予想を上回る結果となりました。また、同日発表の8月のユーロ圏景況感、輸出主導で経済成長が加速したことが追い風となり、約2年半ぶりの高水準となりました。

当面の為替相場においては、米国経済の減速度合いに注目が集まるとみられ、今後発表される米経済指標の内容によっては、世界的なリスク回避姿勢が強まり、欧州通貨の下振れ要因になるとみられます。しかし、市場の懸念が徐々に晴れるにつれ、ファンダメンタルズを評価するように、欧州通貨の中でも相対的に魅力が高いと考えられる通貨から買われる可能性があると考えられます。

## 米ドルおよび欧州主要通貨(対円)の推移

(2010年1月1日~2010年8月27日)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。